**レッスン：M15**

**テーマ：二元性**

**MAC15/M/E/PK/12**

 私の兄弟・姉妹たち、

スピリット、光そして火の子供たち。私達は皆、常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

　　前のレッスンではセルフ・エピグノーシスの様々なフォームについて話し、リアリティーの中ではエピグノーシスは一つであるが、様々な異なったレベルの現れの結果として、それは様々な異なったフォームで現れる、と述べました。言い換えれば、

エピグノーシスは様々なレベルの意識によって制限され、それゆえ現われのレベルはパーソナリティーと同じ数だけ無数にあるのです。

しかしながら、過去に話したとおり、サイコノエティカル界のそのような異なったレベルは、特定のレベルごとにグループ分けされ、それはさらにサブ・グループ、つまり亜グループに分かれます。

　　このレッスンではいわゆる二元性について話します：二元性とは何を意味し、それは何を現しているのでしょうか？二元性は人間の進化・成長にとって必要なのでしょうか、そして二元性はどのぐらい高いレベルの波動に至るまであるのでしょうか？しかし、私達の最初の質問は、二元性は実存の諸世界だけにあるのか、あるいはそれは存在の世界（Worlds of Beingness)の中で始まるのでしょうか？

　　実存の諸世界の上、つまり存在の諸世界において二元性に出会うことが可能でしょうか？しかも、もしそれがイデア、法則あるいは原因として存在の世界の中で存在しないのなら、それがLifeの現象界の中で現れることが可能でしょうか？これら全ての問いに答えが必要です。

　　そうです、イデア、元型としての二元性があります。さらに、創造の中で、神の黙想の二つの現れ、つまりロゴスおよび聖霊としての現れの中でも絶対存在の現れとして二元性がある、とさえ推定することができます。

　　イデア、元型としての二元性もまた創造のセル（Cell of Creation）の基本を形成し、創造のセルとは生命の木を意味します。

 さて、その現れが限界の中にある諸世界での二元性があり、それらの世界は実存の世界です。

もっと深く見ていくと、私達は限界と制限の下にある現れだけでなく、それを通じて表現される手段あるいは乗り物の中における二元性の現れをも有していることがわかります。それらは

肉体、サイキカル体、ノエティカル体という現在のパーソナリティーの諸体にほかなりません。

この世界にあるものは全てこの二元性の結果として現れており、さらにこの二元性の結果としてその存在を認識しています。もし二元性が存在しなかったら、これらの諸世界における現れは理解不可能であり、理解されなかったことでしょう。

page2

　　私達が自分自身の存在を理解する上で、二元性はどのように役立っているのでしょうか？まず最初にそれは問いと答えとして働き、同時に私達の内側における会話を創造しています。もし様々な理由からそれらの現れの一つが存在しなくなったら、私達は植物となった誰かの現象となってしまいます。私達は二元性を通じて初めて、自分の存在を理解できるのです。

　　なぜそうなのでしょうか？もし私達が自分達の周囲および自分自身をよく見てみれば、自分達の存在を理解する唯一の方法は、たまたまその時のレベルにある気づきというフィルターを通じてであることがわかるでしょう。私達は自分の存在の特定の状態を、比較可能な状態を通じて理解します；例えば、特定のフィルターを通じて、私達は何が健康的で何が不健康かを理解します。快と不快を通じて、安楽と嫌悪を通じて、痛みと痛みのない状態を理解する等です。

　　それでは、この二元性は現れ、表現としてどのように働くのでしょうか？二元性はまた現在のパーソナリティーの三つの体を通じて表現されます。三つの体は現れが表現される手段となっています。私達には二つに分かれた器官があります。二本の足、二本の腕、二つの肺、二つの目、二つの耳、二つの鼻孔のある一つの鼻、左右に分かれた一つの心臓、二つの部分に分かれている一つの口、その他があります。

　　それを通じて現れが顕現し表現される手段の中だけでなく、実際の環境の中における二元性にも注目する必要があります。昼と夜、熱と寒、黒と白などのような対立する二つという二元性もあります。

　　存在の諸世界(Worlds of Beingness)における二元性と言う時、そこには本当にこの二元性の目的があるのでしょうか？実存の世界においては、幼児のパーソナリティーがその存在を理解し、特定の目的のために、その子供自身の気づきのフィルターに従って動き、存在し、行動する上で必要な手段を与えられるために、二元性は必要であることはわかります。しかし、私達の魂のセルフ・エピグノシスのために二元性が必要なのでしょうか？私達の魂のセルフ・エピグノシスはそれを必要としているのでしょうか？

　　***私達の魂のセルフ・エピグノシスはそのようなものを全く必要としていません。しかし、その下降には目的があり、その目的とは個別性の表現および最終的には自己実現を通じて、“私は私である”(I am I)という認識を達成することです。***

魂のセルフ・エピグノシスはこれを達成する道の始まりであると言えます。魂のセルフ・エピグノシスは存在の世界の中で現れ、その極く僅かな輝きがマテリオ・サイコノエティカル(materiopsychonoetical)な原子という形で投射され、無知の中に取り込まれるのです。

page3

　　ですから、Lifeが創造界に下降する全目的は、

スピリット・モナド・セルフ(Spirit Monad Self)が創造の諸世界の中で

魂のセルフ・エピグノーシスとして、

実存の諸世界の中で現在のパーソナリティーとして、自己実現を現すことです。

つまり究極的には、魂のセルフ・エピグノシスがカラリング（colouring 個性、味）を達成するのを助けるためです。カラリングは神の黙想に含まれています。

　　存在の世界には調和がありますが、しかしこの調和は実存の世界においては二元性の結果としてバランスに変わり、そこから私達には善・悪の意味が生じるのです。無知という限界から自分のセルフ・エピグノーシスを解放するという、人間の進歩的上昇は、善・悪の意味についての人間の思考・行動の仕方の変化を経ていきます。人間の思考・行動の仕方が変化し、どんどん純粋なものになることによってのみ、それが可能です。

思考・行動の仕方としての気づきのレベルは、サイコノエティカルなエクササイズ、自己分析、自己観察を通じて、及び比較と評価を通じて、より純粋な表現へと変化していくでしょう。

　　二元性の表現は神の黙想の結果であり、神の黙想の結果として私達には存在の諸世界におけるイデア・法則・原因としての二元性があり、一方実存の諸世界には対立する二極の意味という二元性があるのです。

　　二元性は絶対存在の中における一つの質ですが、そこでは顕現していません。二元性はご自身の中で創造するという神の黙想の中にあります。さもなければ、最初にイデア、元型としてそれが表現されることはありえず、後に、対立する二極の諸世界、実存の諸世界において現れることはありえません。

　　この二元性は絶対存在に対してどのように役立っているのでしょうか？絶対存在はそれを必要としているのでしょうか？勿論、必要とはしていません。しかし、絶対存在の特質の中の一つの質である二元性は、創造するという神ご自身の黙想を完成させる上で役立っているのであり、それ以外の役目はありません。

質問：元型、法則、原因がありますが、元型と法則はどのように異なるのですか？それが変えられるか否か、と何か関係があるのですか？

K：元型を壊すことができるでしょうか？例えば、あなたは人間のイデアの元型を変えたり、壊すことができますか？それがイデアであろうと、元型であろうと、それは神の黙想の結果であり、それを私達が変えることはできません。法則はその結果なのであり、私達には創造界の中でそれとは違う諸法則があります。しかし、イデア、元型は最初からそこにあり、それは常に同じであり変わることはありません。これらの様々なイデア、元型はヒポスタシス（＊ある状態にあること）を帯び、マインドを通じて現れます。法則はマインドを通じてそれらが表現されるのをコントロールします。

page4

質問：それでは、イデアと元型の違いは？元型として人間のイデアがあるのなら、この二つの言葉は同じ意味ではないのですか？

K：違います。イデアがあり、元型はそれに基づいています。元型はイデアの後に形を取り、それゆえイデア、元型、法則、原因の世界があるのです。このように生じており、勿論あなたはコレはアレの前に生じているからといって、それにいかなる意味づけをすることはできません。なぜなら、これら全ては時間という意味を越えたところにあるからです。確かに、あなたがそれをここから見れば、それは違っています。なぜなら、私達は時間・空間の中にあり、その中で動いているからです。

質問：絶対存在の中におけるこの二元性は、the Widest of Heavens、つまり処女マリアの結果として現れているのですか？

K：以前のレッスンで述べたように、the Widest of Heavensは創造する法則それ自体なのです。アウタルキー（＊神の自足状態）の中で創造するのは、絶対存在の特質に含まれるその質なのです。それは二元性とは関係ありません。

質問：リアリティーの諸世界、存在の諸世界、ステート(State)の諸世界という異なった言葉を使う時、それらは実際には同じなのですか？それとも同じものに到達しても異なったイデアに関係しているのでしょうか？あるいは、同じイデアが様々な仕方で表現されているのですか？

K：あなたが異なったイデアと言いましたが、確かに様々な原因の結果として、あるいは様々な目的のために、様々なイデアがあります。人間のイデアがあります。異なったオーダー、アークエンジェルのオーダーを与える異なったイデアがあります。調和のイデアがあります。なぜなら調和は一つのイデアによるものだからです。調和は絶対存在の一つのイデアです。調和は元型である、と言うことができるでしょうか？いいえ、それはイデアだけです。しかし、人間のイデアについては、人間の元型もあります。一つのイデアとして異なったアークエンジェルのオーダーがあると言う時、一つのアークエンジェルの一つの元型があるのでしょうか？それとも、複数のアークエンジェルの様々な表現のそれぞれに対する元型があるのでしょうか？

　　そうです、複数の元型があります；アークエンジェル達という全体的元型として、アークエンジェル達の元型があります。そして、特定のアークエンジェルのオーダーの特定のエピグノーシスあるいはセルフ・エピグノーシスの結果として、特定のアークエンジェルのオーダーの特定のセルフ・エピグノーシスの故に、この元型には様々な種類があります。全てのアークエンジェル達は意識なのですが、異なったそれぞれのセルフ・エピグノーシスの結果として、それらの意識はオーダーごとに異なります。ですから、特定の目的のために奉仕している特定のグループ、つまり特定のオーダーがあるのです。例えば、ミカエルは創造界の中で特定の仕事をしており；ラファエルは他の仕事をしている、という具合です。たとえ目的は同じでも、二つのアークエンジェルのオーダーが同じ特定の仕事をしていることはありません。

page5

　　そうなのです、人間の元型と似通った全体的なアークエンジェルの元型がありますが、しかし全く同じではありません。それゆえ、私達は全て同時にアークエンジェルなので、人間はアークエンジェルとして表現されることも可能ですが、特定のオーダーのアークエンジェルとしてではありません。人間が彼または彼女のアークエンジェル的ヒポスタシスを表現するレベルに到達すると、その人はその内側に、全てのアークエンジェルのオーダーのセルフ・エピグノシスを有するのです。人間はアークエンジェル達の全てのオーダーのそれぞれの仕事全てに参加することができますが、アークエンジェルにはそれはできません。なぜでしょうか？なぜなら、人間はロゴス的存在であり、経験の結果として、他のいかなるモナドの黙想の中にも入ることができるからです。アークエンジェル達にはこのような能力がなく、彼らのセルフ・エピグノシスによって特定されたことだけができます。

質問：人間の元型には特定の数があるのですか？

K：いいえ、一つだけです。人間の元型はアークエンジェル達の元型に似ていますが、違いは人間は同時にロゴス的かつアークエンジェル的現れであるということです。

質問：Spirit Being（＊スピリットとしての存在）が通過するものと、アークエンジェル及びエンジェルが通過する、異なった尺度という点から、アークエンジェル達の下降を人間のイデアの下降と比べることができますか？私達が二元性について話しているので、そこにはつながり又は比較があるかどうかと考えているのですが。

K：アークエンジェル達にとって、それらの意味は存在しません。そこには対極というものがないのです。それゆえに、アークエンジェル達は人間の黙想の中に入れないのです。彼らは単に特定の目的のために奉仕し、特定の仕事をするだけです。

質問：創造のセル（＊小室、房）上においては、二元性に関してロゴス的現れと聖霊的現れはどう比べることができますか？

K：実際、聖霊的現れはロゴス的現れのために奉仕するものであり、一般的に神の黙想の目的を助けるのです。

将来、適切であると認められる時がきたら、“生命の木”の上でこれら二つの側がどのように共同作業をしているかを見ることができますが、今はだめです。これらの事柄にフォーカスするには、特別な深い集中が必要なのです。

質問：人間の本当の状態から、人間が絶えず分離しているのは大きな問題ではないのですか？

Ｋ：そうです、しかしこの分離の背後には原因があります。人間はインナーセルフとして自らを完全に表現していません。なぜなら、現在のパーソナリティーとしての人間は生の現象の現れであり、生それ自体の現れではないからです。人間にはこの二元性が必要なのです。なぜならば、この二元性の通過は、人間が再びその神なる源に到達する上で助けとなるからです。もし二元性の表現が停止したら、人間は自らの存在を認識することができず、静的な状態に留まり続けるでしょう。なぜなら、人間の意識であるセルフ・エピグノシスが意味の中で活動することが全くないからです。

page6

これは、粗雑な物質界の波動の中でのみ起こりえるのです。なぜなら、他の体は実際いかなる必要性も持たないからです。必要性（ニーズ）は明白ですが、本当ではありません。それらはパーソナリティーの無知によって作られるものです。それらの波動の中では、私達はそれを通じて自分自身を表現するその手段にダメージを与えることができます。ですから、この波動の中にあるにもかかわらず、その波動の中で全く機能せず、その結果何も得ることがない特定の人々のケースがよくあります。恐らく、非常に本能的な類の二元性以外には二元性がないのです。ですから、二元性は非常に重要であり、私達にはこの二元性が必要なのです。

　　さらにまた、二元性は気づきの特定のフィルターを通じて表現されることを覚えておきなさい。

私達は魂のセルフ・エピグノシスとして自分自身をどのように表現するのでしょうか？ステートの諸世界であるそれらの波動の中において、私達はどのようにしているのでしょうか？魂のセルフ・エピグノシスとして私達は諸創造界において一つの現われであり、（神の）黙想の“現れ”が起こるのは唯一、同化を通じてであり、集中や比較、観察を通じて起こるのではありません。

　　勿論、パーソナリティーが実存（existence)の諸世界にいる間は同化は起こりえません。それゆえ、同化(assimilation)したと主張する神秘家は、実際には同化ではなくて同調(attunement)を達成したのです。

　　もしあなたが同化するなら、あなたは全ての内にあり、全てはあなたの内にあり、実際あなたは全てになるのです。あなたはその動き (movement)であり、全ての動きはあなたなのです。

しかし何回も述べたように、私達がリアリティーそれ自体（Reality Itself)になるまでは、私達は絶対リアリティーに到達することはできません；現在のところ、私達は相対リアリティーの様々な段階を登っているのであり、それが今起こっていることです。しかし、私達は常により高いレベル、さらに高いレベルへと進んでいるのです。

私達は常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

EREVNA/W/M15/PK/12